

2015 年度 事業計画

1. 当協議会を取り巻く状況

2015 年度は、景気回復の兆しが鮮明となり、円安、原油安、賃上げなど経済指標が好転するなかで開幕しました。2014 年 4 月から実施された消費税の 8%への引き上げで、昨年上半期は、国内消費が停滞し、経済成長が鈍化しましたが、下期には回復基調に入り、2015 年度は、新たな経済成長の軌道に乗るとの期待が高まっております。

一方では、アラブ・中東諸国での無差別テロの世界各地への波及や、深刻なCO₂や海洋ごみ問題など様々な地球規模での環境問題が山積しています。

そうした中で 2015 年度は、容器包装リサイクル法（以下、容り法）の見直し審議の再開が、私どもプラスチック容器包装（以下、プラ容器包装）に係る特定事業者にとっての最大の関心事となっております。

今回の容り法見直しでは、昨年 3 月の第 9 回合同審議会で示された論点整理・案に沿った審議が展開され、具体的な論点としてリデュース・リユースの推進、市町村と特定事業者の役割分担・費用負担、合理化拠出金制度の在り方、プラ容器包装の分別収集・選別保管や再商品化の在り方、回収ルートが多様化、PET ボトルの国内循環などが示されております。

なかでも、プラ容器包装の分別収集・選別保管や再商品化の在り方が、最大の論点となっております。

当協議会では、2012～2014 年度を、今後の容り制度と当協議会の方向を決める重要な期間と位置付け、法見直しへの的確で適切な対応を基本姿勢として取り組んで参りましたが、2015 年度も同様の基本姿勢で活動に取り組みます。

具体的な活動は、企画運営委員会をはじめ 4 専門委員会を軸に、①法見直しへの対応を最優先課題とする、②プラ容器包装の再商品化の効率的、高度化に向けた具体案の策定、③諸外国の仕組み等も参考にした我が国に最適なプラ容器包装リサイクルシステムの継続的な検討、④関係各主体との連携や市民、自治体への広報・啓発活動の継続的取り組み、⑤プラ容器包装の環境配慮設計の自主取り組みなど 3 R 活動の推進等に取り組んで参ります。

また、容器包装 8 素材団体で構成する 3 R 推進団体連絡会とも連携して参ります。

2. 事業計画

2-1. 容り法の見直しへの対応

2015 年度は、法見直し審議への的確、適切な対応、特に特定事業者としての役割や責務を適切に果たすとともに、中長期の展望に立ったあるべき容り制度への道筋を示して行くことを最大の課題と位置付けます。

今回の法見直しに際しては、昨年同様に政策専門委員会・法見直し対策WG及び再商品化勉強会WT等を主体に対応し、必要に応じて各専門委員会も対応して頂き、重要課題は企画運営委員会で方向付けして参ります。また、昨年秋から、関係省庁やプラスチック・コンパウンド事業者等にも参加頂いている容リプラ再生材に関する懇談会でもくりサイクルサプライチェーン構築>に向けた検討を進めて参ります。

その際、当協議会としては、昨年8月にパブリックコメントとして国に提出した12項目の提言を基軸に、定性的、定量的データ等に基づく、深化した提言などを示して参ります。特に、プラ容器包装の再商品化の効率的、かつコストの最小化に向けた取り組みの一環として欧州、韓国などの再度の視察・調査等も実施したいと考えております。

また、経済産業省、環境省、農林水産省など関係省庁との緊密な情報交換や、(公財)日本容器包装リサイクル協会(以下、容リ協会)との連携・協力など、法見直しに向けて関係諸機関との連携にも取り組んで参ります。

具体的には、①経済産業省、環境省、農林水産省等との情報交換や実証事業等への参画・協力、②容リ協会との連携・協力、③当協議会独自の調査、実証事業等を通じた定性的、定量的データの整備等を進め、あるべき容リ制度への工程や目標を示して行きます。

2-2. 第2次自主行動計画の推進と第3次計画の検討

2015年度は、2011年から2015年までの第2次自主行動計画の最終年度にあたり、2013年度に達成したりデュース及び再資源化の取り組みを、さらに積極的に推進して参ります。特に本年度は、再資源化率の把握精度を高める様、関係者との連携を図ります。

第2次自主行動計画では、軽量化、薄肉化などリデュースの推進や、新たなリサイクル指標である再資源化の取り組みを進めておりますが、今後も第2次自主行動計画の一層の深化を図って参ります。

さらに2016年度以後の第3次自主行動計画策定に向けて、3R推進団体連絡会とも連携して、検討を進めて参ります。

2-3. プラ容器包装の3Rと環境配慮設計の自主取り組みの推進

3Rの推進は、容リ法に謳われている重要な課題です。プラ容器包装に関しては、素材の特質やリサイクル適性など、市民や自治体関係者からの理解が十分に得られていないことから、様々な課題に対する市民の方々への啓発が求められております。分別収集・選別保管や再商品化の効率化を図る上からも、容器包装の機能や環境配慮設計、事業者の自主的取り組み等が重要になります。

2015年度も、3R推進専門委員会及び環境配慮設計指針策定委員会を中心に、主

に以下の課題に取り組みます。

- ① 環境配慮設計を事業者自ら推進して行くべく、2014年度下半期から準備を進めてきた環境配慮設計の自主取り組み指針策定を進めます。策定に際しては、容器包装利用事業者と容器製造事業者の会員各位に参画頂いて設置した〈環境配慮設計指針策定委員会〉で検討頂き、上半期には取り纏める計画です。
- ② 第2次自主行動計画のフォローアップと、第3次自主行動計画の策定に向けた検討を、3R推進専門委員会と自主行動計画WGを中心に検討して参ります。
- ③ 3R事例集の充実を図るためWGを設け、新たな事例集の作成を検討します。
- ④ 学識者など外部有識者との連携・意見交換も進めて参ります。

2-4. 各主体との連携、協働の推進

2-4-1. 市民、自治体との連携：意見交換会

昨年度に引き続いて2015年度も、市民、自治体との意見交換会を北海道、広島県、京都市など3都市で開催します。

この意見交換会では、市民、自治体の方々との直接の対話を通して、相互の理解と連携・協働への着実なステップが図れたと実感しており、こうした取り組みを通して、プラ容器包装の機能・特性や3Rの啓発が進むと考えられ、今後も当協議会の重要な取り組みとして位置づけて参ります。

なお、次項にある通り、3R推進団体連絡会でも、市民、自治体等との意見交換会を計画しており、同連絡会との連携を含め、主体間連携への深化を図ります。

2-4-2. 3R推進団体連絡会との連動

容器包装8素材団体で構成する3R推進団体連絡会の活動にも、積極的に取り組みます。特に、同連絡会でも容り法見直しへの対応に取り組む計画で、プラ容器包装の立場から連携して参ります。

3R推進団体連絡会では、2015年度は法見直しへの対応のほか、第2次自主行動計画の推進及び第3次自主行動計画の策定、3R推進フォーラム、市民・自治体等との意見交換、市民リーダーの育成や市民団体との協働、学識者との連携などを計画しており、当協議会も3R推進団体連絡会の一員として連携して行きます。

2-5. 広報・啓発活動の推進

2-5-1. 広報・啓発活動の更なる推進

広報・啓発活動は、当協議会の重要な活動であり、2015年度も、広報・啓発専門委員会を中心に、市民・自治体との意見交換会、展示会への出展、ホームページ(以下、HP)の充実などの課題に取り組みます。

- ① プラ容器包装の3Rに関する率直な意見交換や連携・対応の場として市民・自治体

との意見交換会を、2015年度もPETボトル協議会との連携で年3回開催します。

- ② 毎年12月に開催されております、国内最大規模の環境イベントであるエコプロダクツ展に本年も出展を検討します。昨年までは容リ協会、紙製容器包装リサイクル推進協議会と共同出展して参りましたが、本年は容リ協会の出展内容が未確定のため、単独出展も視野に入れて検討します。

なお、エコプロダクツ展については、3R推進団体連絡会も出展しており、今後も従来通り、連絡会として出展します。

- ③ 当協議会のHPは、昨年8月に13年ぶりに全面リニューアルし、好評を頂いておりますが、さらにその充実に取り組んで参ります。
- ④ 会員向け情報提供ツールとして2013年度から始めたメールニュースは、主に活動予定や報告など、会員への情報提供ツールとして、本年度も継続して発信します。

2-5-2. 3R推進セミナーの開催

2014年度は、会員各位への情報提供の一環として、定時総会での記念講演をはじめ、7月、11月、3月に3R推進セミナーを開催、多くの会員の方にご参加頂きました。

2015年度も、継続的に3R推進セミナーを開催する計画で、7月、11月、2月を目前に計3回の開催を予定しており、会員各位への情報提供に、一段と取り組んで参ります。

2-5-3. エコプロダクツ展など各種展示会等への参加

2015年度のエコプロダクツ展への出展については、前項の通りですが、その他様々な展示会への出展にも対応し、プラ容器包装の3Rについて広報活動を行います。

2-6. 技術的課題への取り組み

各委員会での活動に伴い発生する技術的な諸課題への対応や関連する情報収集・提供を主体に、技術・情報専門委員会で取り組みます。

昨年度は、プラキャップの回収・リサイクル実証に関する評価・報告、新技術の情報収集・提供、各専門委員会への技術的助言、広報パンフレット作成への助言などに取り組みました。

2-7. 会員の加入拡大の取り組み

2015年度も、昨年度に引き続いて、会員の加入拡大に向け、積極的な活動を進めてまいります。2014年度は1社から入会申し込みを頂きました。

今後、事業者の3R推進の取り組みを進めて行くには、サプライチェーン全体での事業者連携が必要であり、原材料、容器製造、容器包装利用、流通小売りまで幅広い会員の加入を進めて参ります。会員各位のご協力をお願い致します。

2-8. 日常的な対応と新事務所への移転

外部からの問い合わせ、行政との対応、関係団体との対応等、積極的に対応して行きます。

なお、事務局の移転につきましては、2015年6月に実施する計画です。

以上